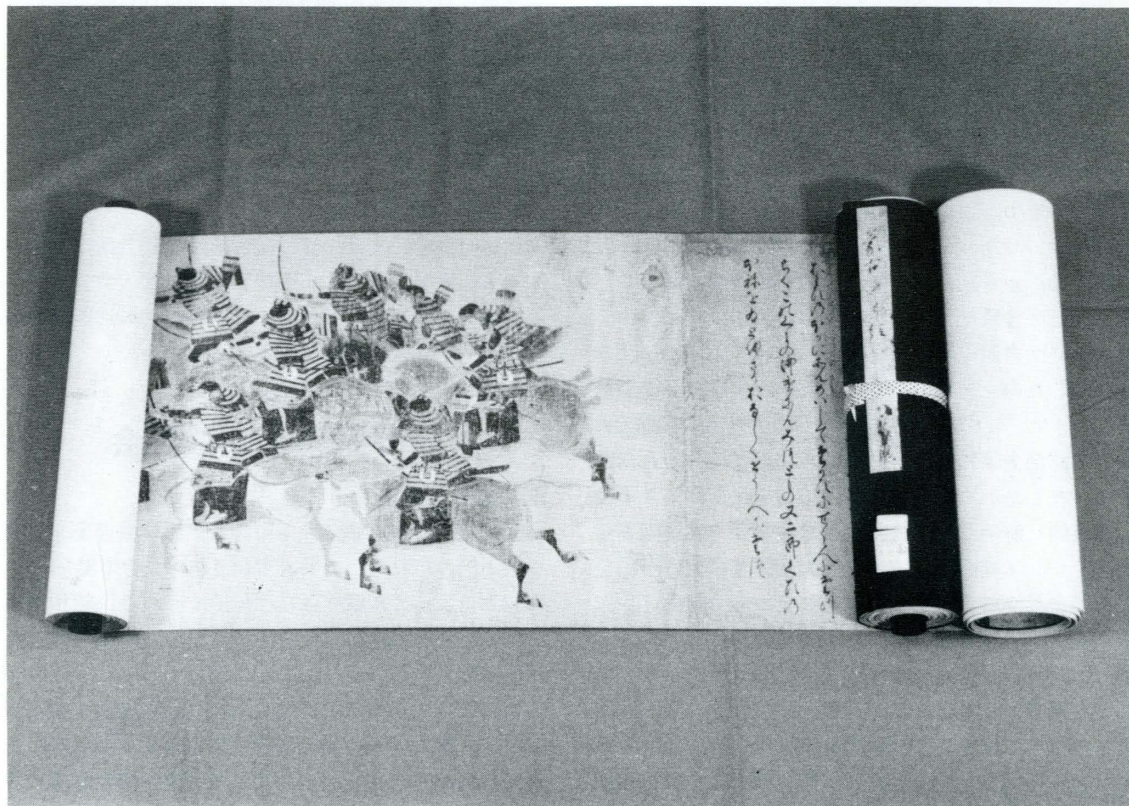


福岡県立図書館報

1986. 3

No. 9



御物本 蒙古襲来絵詞（複製）

蒙古襲来（元寇，文永・弘安の役）時の、肥後の武士竹崎季長の武功をえがいた、前・後2巻の絵巻物。当館所蔵のものは、福岡市が昭和49年の元寇700年記念事業の一環として、京都東山御文庫所蔵本から複製したもの。当時の状況を描いた唯一の資料であり、中世武士の思想や生活・風俗を窺うことができます。

多彩な活動を展開

— 図書館関係団体の組織と事業 —

公共図書館協議会

1. 組織と機構

福岡県公共図書館協議会は、県内公共図書館15館の加入によって組織された団体です。

簡単にその歴史を辿ってみると次の四期に分けることができます。

大正7年から昭和20年—県立図書館が現在のスポーツセンター（中央区天神2）付近にあった時代は、福岡県市部視察研究協議会の名称で昭和7年に設立され、昭和19年まで活動していました。各市回り持ちの研究集会在主たる事業で、社会教育課職員出席のもとに20人前後が参加しています。協議内容は、今日的な図書館問題もあったようですが、時勢が国民精神総動員運動の中での図書館の使命とは何か、といったような暗い時代でした。

昭和20年から38年—戦災復興期を修猷館で過ごし、現在の県庁舎敷地（博多区東公園内）に、昭和24年7月旧県立図書館が開館しました。昭和25年図書館法が制定されたのを契機として、福岡県図書館協会が発足しています。①公共図書館部会②学校図書館部会③大学図書館部会④私設図書館部会の四部会に分かれ活動していました。それぞれの活動の活発化に伴い3年後に発展的に解消し、①公共図書館協議会（私設図書館を含む）②学校図書館協議会③大学図書館協議会④公民館図書館協議会（公共図書館部会から分離独立）に再組織され現在に至っています。当時はこれらをまとめる連合会形式の結成が期待されていました。

主な事業としては、こども童話コンクール（第22回昭和43年まで継続）、読書週間行事として県下ブック・モバイルのパレードを行いました。研究集会是昭和28年から毎年各地で開催されています。

昭和39年から57年—現在では県立美術館に改称した福岡県文化会館（中央区天神5）は、旧県立図書館の新館として美術館を併設し、昭和39年11月に開館しました。昭和43年に読書週間行事として、「第1回福岡県読書推進のつどい」が、西日本図書館学会との共催で開催されました。これが現在も続いている「福岡県読書推進大会」の前身です。昭和45年には、福岡県図書館マスタープラン作成に着手しかけて中断しています。昭和49年度は、福岡県公共図書館郷土資料総合目録を刊行、昭和50年度は、カードセクター利用の県内公共図書館所蔵行政資料総合目録の作成に当たったが、

諸事情により不発に終わりました。昭和52年度では、10年来の懸案事項であった県内公共図書館相互貸借規程が総会で承認、昭和53年度には、従来からの館長会議に加え、現場で直接仕事に当たっている一般職員による事務担当者会議が発足しました。昭和55年度には、負担金改正など活発な動きをしています。

昭和58年以降—県文化会館から現在地への新築移転に伴い、協議会事業を若干手直し、雑誌分担保存に関する協定書の作成、福岡県郷土資料総合目録も継続して刊行、昭和59年度には、新聞の分担保存に関する協定を取り上げ、現在その協定書作成を急いでいます。

以上のように協議会の活動は堅実に進んで来ました。機構としては、会長1、副会長2、理事4、監事2で構成され、事務局は県立図書館参考課の担当です。

2. 昭和60年度の主な事業

①総会（6月）②郷土資料総合目録編集会議（2回）③司書研修会（2回）④第17回読書推進大会（11月）
なお今年度の総会において、福岡県読書推進運動協議会の設立が満場一致で了承されました。

公民館図書館協議会

1. 組織と機構

公民館図書館協議会は、中央公民館に図書室を有する県下84の市町村（公共図書館を持つ13の市町を除く）の加入によって組織された団体です。設立は昭和28年2月ですから、優に30年を越える歴史と伝統を持った関係団体であるということが出来ます。

本会の設立目的は、公民館相互の連絡提携を密にしながら、県立図書館貸出文庫の有効適切な活用をはじめ、公民館図書室の運営に関する調査研究と各種図書事業の企画・実施を通じて地域の教育文化の発展に寄与するところにあります。具体的には、公民館図書室



読書活動研究集会

事業の調査研究、貸出文庫用図書の利用研究、公民館図書部担当職員のための研修会の開催、講演会・大会等集会活動の企画・実施、読書活動関係資料の作成配布などの諸事業をあげることが出来ます。

これらの事業は、県内6地区及び県教育委員会・県立図書館から選出された理事31名で構成する理事会において審議され、総会の議決を経て実行に移されます。理事会・総会は、原則としてそれぞれ年1回の開催です。また、役員は各理事の互選により、会長1名、副会長3名、監事2名が選出されます。なお、事務局は県立図書館普及課が兼務という形で担当しています。

2. 昭和60年度の主な事業

(1) 第12回読書活動研究集会

地域の読書活動を発展させる上で、大きな推進力となっている読書会・文庫と公民館図書室との連携のあり方を中心に、読書ボランティアの養成と活用などをめぐって、地域の読書活動推進のための望ましい方策をさぐる研究集会です。参加対象は公民館関係職員をはじめ、読書会・文庫のリーダー及び会員、社会教育関係職員など。11月27日、講師・助言者に純心女子短期大学平湯文夫教授を招いて開催しました。午前中は平湯教授の基調講演、午後は「公民館図書室と読書会・文庫の連携について」と題して、事例発表を土台に研究協議を行い多くの成果を収めました。

(2) 県外優良公民館等視察研修

公民館図書室担当者等を対象に、県外先進地の図書館・公民館における読書活動の状況について視察研修を行い、関係職員としての資質の向上を図ることを目的にした研修事業です。本年度は、広島県において3日間の日程で視察研修を行いました。主な研修内容は①県立図書館の読書普及活動について ②公民館図書室の施設・設備について ③公民館図書室の運営並びに事業活動について ④読書会・文庫等関係団体の指導育成についてなどです。研修参加者は総勢6名、先進館の多彩な活動に触発されて意欲も新たに帰福しました。

(3) 公民館図書館担当者研修会

県内各市町村の公民館図書館（室）の担当者を対象に、今後の望ましい図書室運営のあり方と地域における読書活動推進体制の確立をめざして開催します。本年度は、とくに、県立図書館が実施した公民館図書室実態調査を基にして、その現状と課題を明らかにするとともに、上記の県外優良公民館視察研修の成果報告を通じて、相互の意見交換による研究協議の深化をねらいました。開催期日は61年2月7日、約50名の参加者を得て盛会裡に終了しました。

(4) その他の事業

共催事業として、県立図書館が主催する「第17回読書推進大会」及び「子どもと読書研究会」があります。

地方史研究連絡協議会（福史連）

1. 設立趣旨及び経過

昭和42年10月、福岡県文化会館において第1回福岡県地方史研究協議大会が開催され、小倉郷土会・田川郷土研究会・福岡地方史談話会・三池史談会・美夜古文化懇話会・浮羽郷土研究会等県内各郷土会が参集し、県下各郷土会を結集した組織を模索することになりました。約1年間準備の後、44年2月15日、第2回大会



地方史研究協議大会

開催に併せて「福岡県地方史研究連絡協議会」の発会総会が行われました。参加団体24（16郷土会・8施設）です。以来、18年を迎えようとしていますが、傘下組織は61年1月現在40団体を超え、県下郷土会の過半に及ぶに至っています。その設立目的に、「この会は地方史の研究に関係ある機関・団体等の相互連携を密にし、研究成果の交流と資料および情報の交換伝達をはかり、福岡県を中心とする地方史研究の総合的推進を目的とする。」というように、県下地方史研究に携る在野研究者の連携と研究成果発表の場としての機能を果たしています。

2. 会の運営と事業

会の構成は、加盟郷土会から理事が選出され、理事、理事総会で選出された会長・副会長・常任理事・監事で組織された常任理事会、事務局からなる。理事を出す単位団体は登録された会員数に応じた年間会費を納入するが、これが会の年間運営費です。

会が実施する事業として、

- ① 連絡機関誌「地方史ふくおか」の発行。年4回、B5版8頁。
- ② 福岡県地方史研究協議大会（年1回、秋期）の開催（福岡県立図書館との共催）。
- ③ 地区別研修会（冬期、豊前・筑前・筑後各1回）の実施。

があります。その他、文献目録刊行・資料紹介・講習会等開催・県外関係機関等との連絡提携などがあります。

図書館としても会の趣旨・事業が郷土資料の収集・情報の交換・郷土研究の推進等、その業務の一助となるものですし、両者の円滑な運営を考慮して郷土課で

事務局を引き受けています。

3. 近年の主な事業

昭和58年4月福岡県立図書館が開館するに伴い、旧福岡県文化会館図書部から引き続き、事務局が図書館郷土課に移り、郷土資料の充実・古文書の収集保存が新設課の課題でもあり、会との連携強化が図られ各郷土会機関誌の交換をスムーズにし、郷土資料室架蔵をも充実するような方途が構じられました。また、機関誌「地方史ふくおか」の内容充実のため、発刊回数・頁数共に増やされました。

近年特筆されることとしては、59年10月27日に開催された第18回地方史大会です。同年2月が会発足15周年に当たるところから、記念講演会とし併せて郷土資料室が集積してきた県内地誌類を展示公開し、大方の人気を博しました。

また、「地方史ふくおか」が60年3月号で通巻50号となり、1冊に合綴し刊行しています。約20年に及ぶ蓄積が地方史研究者には参考となっているようです。

まだ各地で活躍中の郷土会で未加盟の団体が多く是非参加をお願いします。それが地方史の空白を埋める第一歩ともなるのですから。

大正元年結成された南筑連合史談会が、同5年福岡県連合史談会となり、同会が同年筑紫史談会の主催で福岡県立図書館に講演会を開き600余名を集めています。70年を経た今日再び大同を期したいものです。

母と子の読書会協議会

1. 設立趣旨及び経過

昭和35年、鹿児島で産声をあげた「母と子の20分間読書運動」（児童文学者椋鳩十氏提唱）が、社会の大きな関心を呼び、この運動の輪は全国に広がりました。翌36年、この母子読書運動に共鳴した西日本新聞社が椋先生の指導で「西日本母と子の20分間読書運動」を企画、12年間にわたって福岡県を中心に紙面キャンペーンを展開しました。昭和48年、この運動もようやく地域社会に定着しましたが、さらに飛躍発展のためにこの組織を発展的に解消し、福岡県、福岡県教育委員会、



第24回母と子の読書のつどい大会

福岡県立図書館（当時福岡県文化会館）、西日本新聞社の四者が大同団結し「福岡県母と子の読書会協議会」を結成、社会文化事業の一環として広く県民運動を推進してまいりました。

ことは創立25周年の記念すべき年に当たります。設立当時の趣意書には、こう書かれています。

「この母子読書運動は、子どもを中心に、家族が毎日本を一緒に読み、そして語り合う運動です。親と子の共通の話題を広め、理解し合い、心のかげ橋をかけましょう。社会生活の原点である家庭生活での人間形成をめざすとともに、子どもにとって一生の心の支えになり、ひいては生涯教育にもつながります。」

2. 会の運営と現況

会は名誉会長（1名）、会長（1名）、副会長（2名）、常務理事（1名）、理事（若干名）、評議員（若干名）、企画編集委員（若干名）、監事（2名）と事務局（福岡県立図書館内。事務局長は常務理事兼務）からなっています。

(1)理事会（学識経験者、関係団体代表）で構成し、会務を執行する。

(2)評議員会（加入読書会代表）で構成し、重要事項を審議決定する。

(3)企画編集委員会（母親代表、関係団体代表）で構成し、紙面製作、諸事業を審議決定する。

またこの会は、幼稚園、保育園、小学校を対象にして10世帯以上で構成する母子読書会をもって会員とし、会費（年間一世帯当り300円）を基金にして、福岡県補助金、西日本新聞社助成金によって運営されています。現在、県下130団体、25,000人の会員が加盟し、地域社会の核として積極的に読書活動の普及と読書会の底辺拡大に取り組んでいます。

3. 主な事業

(1) 母と子の読書新聞の発行

年12回、タブロイド4頁。毎月1万部印刷し、会員をはじめ、県教育庁教育事務所、小学校、図書館、公民館、各市教育委員会に無料配布しています。

(2) 「母と子の読書のつどい」大会

年1回。福岡、久留米両市持回りで開催。会員同志が1年間の読書会活動の成果を披露する。母と子の読書体験発表及び劇や紙芝居など上演する。

(3) 母親研修会

年10回。地域社会で活躍するお母さんに、よりよい読書指導をしていただくため、講師を派遣し、教養を高める。

(4) 講師派遣

「読書会づくり」及び「読み聞かせ」など、実地指導をする。

(5) 福岡県立図書館が年1回実施している「福岡県読書推進大会」の共催。



日本農書全集

山田龍雄・飯沼二郎・岡光夫編 農山漁村文化協会 昭和56年刊 全35巻

全国津々浦々の農民が、永年農耕に従事して会得した農業技術の子孫に伝えようと、寸暇を惜しんで書き継いだ近世農書114点の翻刻です。

最古の農書「清良記」、農書の代表「農業全書」、農具の普及をめざした「農具便利論」、特産物の商品生産奨励のための「広益国産考」のほか、「国書総目録」（岩波書店刊）に未載の新資料が相当数収録されています。福岡県関係では、「農業全書」、「蝗除試仕法書」、「園圃備忘」、「窮民夜光の珠」、「砂島菜伝記」、「年中心得書」、「農業横座案内」、「農人錦の囊」があります。

これら全てに、農学の専門家が、厳密な翻刻、現代語訳を施し、詳細な解題文中では今日的意義に言及しています。

農学史の基幹資料であると同時に、地方の言語・民俗・藩政・経済・庶民生活史など多岐にわたる活用が望まれる資料です。

明治期鉄道史資料 復刻版

野田正穂ほか編 日本経済評論社 昭和55-56年刊 全29冊

「鉄道局年報」にはじまるこの資料集成は、明治期の鉄道に関する統計、鉄道会社史、鉄道人の伝記等を含む基本資料です。

初期の鉄道は官設でしたが、明治14年には民間最初の私設「日本鉄道会社」が生まれ、政府の手厚い保護の下に私設鉄道が次々と創設されていきます。しかし、明治39年の「鉄道国有法」の公布後は国有化がすすみ、全鉄道の90%が官営になりました。

この集成のうち、「九州鉄道株式会社小史」をみると、明治20年1月25日に福岡、熊本、佐賀の各県知事に会社創立願書を提出、22年12月11日に博多と千歳川（久留米）間が開業しました。本書には創立の由来、筑豊・

伊万里・豊州・唐津の4鉄道を合併したこと、資本・社債、線路（区間・路離）、運輸開始年月日、各種車両台数・走行路離、収支等が記述されています。

なお、姉妹編ともいうべき「大正期鉄道史資料（全46冊）」も刊行されています。

日本の名産事典

遠藤元男・児玉幸多・宮本常一編 東洋経済新報社 昭和52年刊

本書は、名産を単なる観光用土産品としてでなく、歴史的に、その土地の風土が育てた原料で、その土地に生きる農民・漁民・山民あるいは職人が生産して来たわが国特有の伝統産業であると捉えています。

この土着性と生活性の視点から、全国各地の手工生産物としての名産を、広範な産業分野から拾いあげ生活文化史的に解説しています。県別毎更に産業部門毎に（農産物・水産物・料理・菓子・玩具・工芸品）編成し、写真や図版（『日本山海名物図絵』からの挿図）も多く、内容理解を豊富にしてくれます。

資料編では、「郷土の酒」、「駅弁」の歴史とあわせて、編者の遠藤元男が「名産の歴史」を解説する中で『魏志一東夷伝・倭人伝』、『和漢三才図絵』、『山海名産図絵』、『日本物産要覧』等を紹介し、3世紀から近世・近代における地方特産物の実態と伝統産業部門を比較・対照できる内容となっています。

写真記録日本伝統狩猟法

堀内讃位著 出版科学総合研究所 昭和59年刊

日本における狩猟史、狩猟伝承、狩猟法に関する研究書はいくつかありますが、本書は第二次世界大戦前後にどのような鳥獣狩猟の形態が残っていたかをまとめて記録しています。

著者はこの分野の研究者であるとともに、プロのカメラマンであっただけに、収められている写真と文章には直接取材の迫力があります。

内容は「宮内省保存の猟」、「民間伝承の猟」、「資料・その他」の三部からなっており、第一部には昭和11年埼玉御猟場での「上鷹猟」ほか9種、第二部には昭和10年埼玉県南埼玉郡での「雉鳩の無双網猟」ほか35種、第三部には「黒田家旧庭園」、「鉄砲口伝書」ほか12件を収録し、撮影地とその年月日もわかるようになっています。

しかし、これらの伝統的狩猟法は、そのほとんどが法律で禁止されているか、消滅しています。自然保護が世界中で叫ばれる今日、解禁や復活が考えられないだけに、本書は貴重な記録集といえます。

関史筌蹄 筑前郷土誌解題

「関史筌蹄」は、古今の史籍約5,000点の解説で、筑前の碩学、芳齋長野誠（早良郡谷村字濁池生）が文政11年（1828）から明治24年（1891）までの63年間にわたって閲読した資料を、正史、紀伝、霸史、藩史、系譜、伝記、日記、僧伝などの20部門に分類しまとめたもので、全43巻10冊に綴られている。筌蹄とは、手引き、案内の意である。

自書によれば「文政11年に起草し四十年を経て明治十五年六月十七日に至りて成る」さらに「後又二巻を増し併せて四巻と為し、秘録一卷を増し併せて四十三巻と為りし也」とあり、長い年月をかけて成されたものであるということが窺われる。

このうち筑前関係の資料を抜粋整理して「関史筌蹄筑前郷土誌解題」というタイトルで、昭和8年に刊行されたのが本書である。

発行は昔の福岡県立図書館で、編集に当たったのは、大正5年より同館に勤務していた岸田信敏という司書であった。

氏は、この長野誠の「関史筌蹄」をたんねんに読むことから始めて、その中より筑前関係のものを選び出し、3年後の大正8年3月には「関史筌蹄中郷土志ニ関スル図書索引」をすでに作成していた。さらに「関史筌蹄」の中にも○印をつけ、郷土志料を検索するのにも便利ようにしていた。それから昭和8年の刊



行まで十数年の歳月が流れているが、その間、各書名及び解題の選択、書写、さらに編集の段階での書名・著者名の50音並べかえ、取捨選択等と郷土史研究の豊富な知識をもとに、当県郷土史解題の原点の書といべきものを編さんしたものと見える。

本書に収録された資料点数は804点。青柳種信、伊藤常足、貝原益軒、亀井南冥、竹田定直、長野誠等、筑前の著名な学者をはじめ、269人の著作を網羅している。内容は、家譜、系図類、古文書、紀行文、地誌、藩政史料、軍記戦記類、古社寺の縁起、由緒書、伝記日誌等で、筑前地方史研究に欠かせない資料である。

「関史筌蹄」の著者、芳齋長野誠については、

郷土資料解題(7)

本書の巻末（附録）に略伝があるので、若干記述すると、文化5年に月形質の長男として生れ、18歳の時（文政元年）福岡藩士長野金十郎の養子となる。学問及び諸芸については専門の師に習い、軍学・海事軍法については皆伝を受けるほどであった。後、兄の月形深蔵より、長男の洗蔵の教育を託され、経学、史学、軍学をとおして、「勤王愛国の精神を鼓舞し、順孝世に処すべき」と教え、勤王の志士に育てあげる。52歳の時、御家譜方手伝学問所指南助役、56歳本役、57歳御右筆格、62歳修猷館訓導を経て、64歳で隠居したが、すぐ藩庁に藩士殉難行状編集のため採用される。有栖川宮熾仁親王知事の時代になっても庶務掛を拝命。辞職後は上京して黒田家誌の編集にあたり「福岡啓藩史」を著すなど、81歳（明治24年）で没するまで「福岡名家小伝」「香椎考」等、数多くの著書を書いている。なお、県在職時代に整理編集した「福岡県史稿」は他巻と併せ、当館貴重書庫に所蔵されている。

岸田信敏については、復刻版に記述（岸田家譜より）があるので、抜粋して掲げたい。

明治7年、筑紫郡八幡村大字野間（現福岡市南区）の守部家の次男として生れ、明治34年、岸田貞廉の三女季子と結婚、養子縁組をして家督を相続した。（岸田家は旧福岡藩士）、明治20年から24年まで高

場乱について漢学を修め、25年から修猷館に学び同31年に卒業、その後県内の高等小学校の教員、生命保険の書記を経て、大正5年4月より福岡県立図書館に奉職、昭和12年の退職まで、22年間も郷土史研究に情熱を傾け、長野誠のくせのある難解な字を読みながらこの偉業を達成したわけである。

本書が刊行された昭和8年の10月26日には、氏に対して日本図書館協会九州支部より「多年図書館事業ニ盡瘁セラレ其ノ成績續ニ顕著ナリ」と表彰状が送られている。本書の労苦に報いるものであったと思われる。

没年は昭和15年（7月5日）であった。

なお、本書の復刻版が昭和51年に文献出版より刊行されているので付記しておく。

県内読書施設紹介

中間市中央公民館図書室

中間市は面積1,575km²、人口51,100人でかつては石炭産業の町として栄え、今日では北九州市の衛星都市として、大きく変貌をとげようとしています。また、「子孫に残すふるさとづくり」をめざすために「すこやか都市」宣言のもとに、諸施策が展開されています。

1. 図書室の現状

中央公民館は、子どもからお年寄りまで心豊かな生活を営むために生涯学習の中核機関として、開館8年目が過ぎようとしています。

図書室は、64m²で蔵書冊数が約9,500冊、このうち2,500冊が故添田市長の寄贈によるものです。閲覧机2、椅子12脚で書架がふえるたびに少しずつ減らしている状況です。

開室時間は、毎日午前9時から午後5時まで、休室日は、祝祭日と本の整理日などです。土曜、日曜日は館長をはじめ公民館職員が交代勤務で窓口業務にたずさわっています。貸出期間は、2週間、1人3冊まで、1日平均貸出利用者数は40人、平均貸出冊数105冊となっています。

また、図書購入費は昭和60年度145万円で購入しています。しかし、地域文庫や学童保育所などに団体貸出をするには、まだ蔵書が不足していますので、県立図書館の貸出文庫で補っている状況です。

2. 読書活動の状況

子どもたちに読書を通して「豊かな夢と創造性をも！」といった願いをこめて中央公民館では、子どもと本を通していろいろな活動を展開しています。

町内の各地域で活動がもっと活発にできるように、

リーダーの養成、研修会、講演会などの他、啓発資料を配布し、文庫連絡会を通して、町内公民館などに文庫の掘りおこしなどをよびかけています。

また、ボランティアの養成を重点におき、公民館での諸行事（文化祭・子どもまつり）にも参加することで市民に広く、子どもの発達段階における読書の重要性を訴え、地域での仲間づくりにも一役かかっているところだ。

3. 今後の課題

数年前より図書館建設の早期実現が叫ばれつづけ、ようやく昭和62年に開館の運びとなりました。

そこで、せっかくできる図書館に市民の声を反映しようとして文庫連絡会が中心になって、各団体と手をとり合って学習会を開いています。図書館とはどうあるべきか、市民にとって利用しやすい図書館とは、などいろいろな意見を出し合って、従来の行政主導型に終らず市民ぐるみで、よりよい図書館づくりをめざしています。

図書館は、中央公民館に隣接して設置されるので、現在の図書室は吸収される予定ですが、図書館に移行した後も、市民の豊かな読書環境づくりをめざして行きたいものと願っています。



図書室風景

はごさき
厳しい寒さもようやく緩みかけて来ました。朝の通勤風景にも、なんとなく穏やかさが漂い、老若男女を問わないのびやかな伸びに出合うこともしばしばです。
▼ラッシュ電車の中で、ついウトウトしていると、ふと物が落ちる音で我に返り、床に週刊誌や新聞、時には文庫や単行本がころがっているのを見かけます。時間潰しが主とはいえ、通勤時には本は意外と役立つもののように思っています。近、「二〇〇年で本が消える」といったショッキングな表題の記事を目にします。十九世紀中葉以降の近代化学パルプ製法で作られた洋紙（酸性紙）を用いた本の破損度が問題視されているのです。先頃も、文書館・博物館・美術館、製紙・製本・出版、大学、ニューメディア、そして図書館の各関係者が一堂に会し、この「酸性紙問題」を共同で検討していただきました。▼将来へ向けての解決法は、中性紙への切り換えです。すでにその端初は拓かれてはいるのですが、問題は過去の資料をどう保存するかで、欧米でもまだ極めつけの対策は講じられていません。▼現在基本的には「文化」は紙の上であり、活字による文化の伝承の役目を担う図書館としては、この問題に更に注目して行くことが必要です。

お知らせ

◆福岡県公共図書館協議会第2回司書研修会

1月22日(水) 10時～15時 会場：県立図書館
テーマ：新聞の分担保存ほか

◆郷土資料調査員会議

1月25日(土) 10時～12時 会場：県立図書館

◆福岡県公民館図書部担当者研修会

2月7日(金) 10時～15時 会場：県立図書館
テーマ：公民館図書部実態調査から

◆九州地区県立及び政令指定都市立担当者会議

奉仕部門 2月5日(水)～2月6日(木)

会場：佐賀市

整理部門 2月6日(木)～2月7日(金)

会場：福岡県立図書館

郷土資料部門 2月20日(木)～2月21日(金)

会場：鹿児島県立図書館

◆九州地区公共図書館ワークショップ

2月18日(火)～2月19日(水) 会場：別府市
テーマ：生涯学習時代に応える館外奉仕の在り方

◆福史連地区研修会

筑前地区 3月1日(土) 14時～

会場：鞍手町中央公民館

筑後地区 3月2日(日) 13時30分～

会場：吉井町中央公民館

豊前地区 3月1日(土) 14時～

会場：行橋市役所内市民ホール

◆福岡県公共図書館協議会館長会議

3月6日(木) 10時30分～ 会場：県立図書館

テーマ：新聞の分担保存ほか

◆福岡県立図書館録音図書朗読奉仕者研修会

3月24日(月)～3月25日(火) 会場：県立図書館

昭和60年度九州地区県立・政令指定 都市立図書館整理部門担当者会議

さる2月6日・7日の両日、九州各県の県立および政令指定都市立図書館の整理部門担当者会議が福岡市において開催されました。

この会議は、例年各県持ち回りで継続的に実施されているものですが、本年度は整理部門業務のなかで、特に当面する諸問題を明らかにしながら、今後の整理業務の充実発展のための解決策をさぐることを目的に協議が行われました。

参加者はおよそ20名、協議題としては、①地図類の整理方法および提供のあり方、②保存逐次刊行物（特に雑誌）の記事索引など、日常の整理業務の中で生じた具体的な問題点を中心とし、また、各館から提出された照会事項では、①図書目録カードの作成 ②購入雑誌のタイトル数および図書購入費の何%位か、寄贈雑誌に対する礼状送付の基準 ③資料選定にあたって本館用図書の蔵書構成、逐次刊行物の市町村立図書館との分担購入、保存 ④刊行物の受け入れ、整理業務 ⑤図書整理業務のなかで既成のカードの割合、紀要など抜刷の出版者の記述、閲覧者に対して新刊図書の配架時期の予告、古書・古文書の評価基準、図書購入は出版物の何%か ⑥逐次刊行物の永久保存の基準、図書整理業務の委託 ⑦図書資料整理基準などの質疑応答を交えてかなり突っ込んだ意見交換が行われ、終始熱心な討議が重ねられた結果、実り多い成果を収めて閉会しました。

開館・休館

開館時間	閲覧室	午前9時～午後7時 (日曜は午後5時まで)
	自習室	
	郷土資料室	午前9時～午後7時 (土・日曜は午後5時まで)
	視聴覚室	午後1時～午後5時 (但し、視聴覚室は日曜閉室)
	子ども図書室	
	録音図書室	午前9時～午後5時 (土曜は正午まで、日曜閉室)

休館日 火曜日 図書整理日（月末）
国民の祝日 ばく書期（春期）
創立記念日（4月1日）
年末年始（12月28日～1月4日）

編集後記

- ▶今回は県立図書館関係団体の紹介を特集しました。
- ▶それぞれに独自の性格を持ち、ユニークで主体的な活動を展開しながらも、究極の目的はやはり県下の読書活動の推進と地域文化の高揚にあるといえます。
- ▶県立図書館としては、従来にも増してこれら関係団体との連携強化と自主的な発展をサポートする役割が重要となります。